

一人一人の進路実現に向けた、きめ細かい指導。
部活動や奉仕活動への参加を通じて、豊かな人間性を育成。
地域社会に信頼される学校づくり。
それが白根高校のスピリットです。

挑戦

Shirane Spirit

Vol. **55**
第55号
Feb. 2024
白根高校通信

CONTENTS

- P.02 修学旅行
- P.03 合格体験記
- P.04 創立40周年
- P.04 部活動紹介



きらめく地に刻まれた悲しい歴史
さまざまに表情を変える青い海
すべてが初めての場所で友と語り合った時間
知らなかった——
たった4日間が宝物になるなんて





修学旅行 沖縄県

2023.11.12.Sun.
~11.15.Wed.



今年の修学旅行は直前までインフルエンザが流行ってしまいましたが、全員無事に行くことができました。一日目は平和祈念公園とひめゆりの塔に行きました。この日は沖縄戦についてとても深く知ることができました。特に平和祈念公園では、平和の礎に刻まれている亡くなった方の多さに驚きを隠せませんでした。二日目は、又又マチガマ、万座毛、ウミカシテラス、美ら海水族館へ行きました。ガマでは当時の方々の生活の大変さを知り、平和に暮らしていることがどれほどありがたいことなのかを実感しました。万座毛は「万人も座する草原」とされ

2年2組 石川 来夢



2年2組 山下 叶斗
今年の修学旅行は、コロナ以上にインフルエンザの感染拡大が心配される中での実施となりました。そのような状況のなかでも、当日の欠席が一人もおらず全員が修学旅行に行くことができたのは、先生方や保護者の皆さまのサポートがあったからだと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。

ひめゆり資料館へ移動して、ひめゆり学徒隊だった方の講話を聞きました。戦争体験を聞くなかで、それがどれだけ苦しいものだったのかを考えると、計り知れないほどの恐怖を感じました。私たちと同世代の少女たちが、死の恐怖にさらされながらも陸軍病院などで負傷兵の看護や死者の埋葬を手伝っていたという状況は、あまりにも過酷で想像を絶するものがありました。

二日目は、クラス別バス研修と美ら海水族館見学でした。最初に訪れた又又マチガマでは、内部に当時の痕跡が色々と残っていて、戦時中の状況を生々しく感じるのと同時に恐ろしさも感じました。美ら海水族館では、シンベイザメをはじめ珍しい魚をたくさん見ることができました。シンベイザメは圧倒されるほどの迫力でした。三日目は、タクシー班別研修を行いました。その中で最も印象に残っているのは、昼食の後に訪れたアメリカンビレッジです。アメリカンビレッジでは、古着屋や雑貨店など様々なお店があり、いろいろなお土産を買うことができました。四日目は、首里城に行きました。首里城は数年前の火災で正殿が焼け落ちてしまったため、復元工事が進められている

いて、毛とは野原のことらしいです。万座毛から見る広大な海はとても迫力がありました。ウミカシテラスでは、間近で飛行機を見ることができ、美ら海水族館では想像を超える大きさのシンベイザメなどを見ました。三日目はホテル前のビーチでマリナー体験をした後、別荘でクラス研修をしました。マリナー体験では、シュノーケリングとバナナボートをしました。沖縄の海は透明度が高く、サンゴ礁も沢山の魚もよく見えて感動しました。シュノーケリングでは、インストラクターさんが少し深めの沖の方に連れて行ってくださり、ヒトデを取ってきて触らせてくれました。ヒトデはとても大

きくて硬く、驚きました。バナナボートでは男女に別れて十人ずつで乗せてもらいました。大きく曲がったりスピードが速くなったりに必死につかまりました。どれも初めての体験だったので、沖縄の海や自然を満喫すると同時にとても楽しむことができました。午後のタクシー研修のなかで訪れたアメリカンビレッジには、カラフルな建物が沢山ありました。最後にアクセサリーの手作り体験が出来るお店「カーノア」に行き、世界で一つだけのブレスレットを作りました。

四日目は、首里城に行きました。まだ工事中で本物は見られませんが、修復作業を見ることが出来ました。これはこれでとても貴重な体験だったと思います。今回修学旅行に行くと、平和の大切さや沖縄の自然の雄大さなどたくさんのお話を学ぶことができました。唯一の地上戦が展開された沖縄に足を運び、現地で講話を聞いたりガマに入りたりしたことは忘れられない貴重な体験となりました。こうした体験を共有したことで、クラスメイトや友達との仲もより一層深めることができました。今ある日常を大切にしようという気持ちを持っています。これからも持ち続けていきたいと思っています。



今回の修学旅行ではたくさんの思い出ができましたが、同時に平和の大切さをあらためて実感することができました。ここで学んだこと、感じたことを忘れず、今後に生かせるようにしたいと思っています。



私には幼い頃から看護師になりたいという夢があり、入学時より志望校を決めていました。

推薦入試を受験するにあたり、小論文の練習から始めました。もともと文章を書くことが苦手だったため、初めの頃は思い通りに書くことができませんでした。落ち込むこともありましたが、担当の先生に文章の構成や表現などの指導を繰り返しいただいたことで、少しずつテーマに沿った文章を書けるようになりました。面接練習においては、担当の先生をはじめ校長先生や進路担当の先生と多くの先生方にご指導いただき、自信をもって試験に挑むことができました。

合格体験記

私は進路を決定するにあたって、夢をひとつに絞ることがなかなか出来ませんでした。そこで色々調べていくうちに、様々な場所や場面で活躍出来る看護師という仕事に魅力を感じるようになりました。

目標が決まってからは、自分から積極的に動くことを大切に、ボランティアの回数を増やす、欠席しないようにするなど小さなことから意識するようにしました。三年生に進級すると本格的に受験指導が始まり、受験への意識も高まっていきました。担当の先生のご指導の元、面接と課題作文への対策を進め、新聞を読むなど、様々な考え方や意見を取り込み考えられる機会を増やしていきました。自ら動き、努力をしているという実感を得ることで自信を身につけ、そ

の支えがあったからです。そして何よりも、先生方の熱心なご指導のおかげです。この感謝の気持ちを忘れず、これからも精進し、夢への第一歩を踏み出していきます。

都留文科大 教養学部 地域社会学科

私は将来の具体的な目標ややりたいことがなかなか見つからず、進路を決めるのが遅くなってしまいました。そのため、志望校を確定させたのは三年生の夏休みでした。何かに挑戦することが苦手だった私は、今まで自分から行動を起こすことがあまりありませんでした。しかし、二年生のときに生徒会に入ったことをきっかけに、いろいろなことに挑戦してみようと思えるようになりました。受験についても、自身のレベル

多様な進路希望に応じたきめ細やかな指導が進路実現を支えています

本年度合格者数

四年制大学 44名

短期大学 13名

専門学校 42名

就職 6名

の自信が合格に繋がったのだと感じます。受験の準備をしていくなかで、嫌なことや理不尽に思う事もありました。そんな時は自身の目標を思い出して、前に進むことが大切です。今まで支えてくださった先生や周りの人のためにも、これからの気持ち忘れず頑張っていこうと思えます。

よりも上の大学にチャレンジすることになりました。志望先の受験方法は小論文でした。私が合格のために力を入れたことは、たくさん文章を書くことです。担当の先生に小論文の指導をしていただき、それを参考に次を書くことで、徐々に充実した内容の小論文を書けるようになりました。無事に合格することができたのは、毎日遅くまで小論文の指導をしてくださった先生や、周りの人の支えがあったからだと思います。



専修大学 経営学部 経営学科 佐藤 柚太
私は、幼い頃からプロサッカー選手になりたいと考えていました。そのため高校進学後も、サッカーに本気で取り組んできました。また学校生活では、定期試験に力を入れ、課外活動等にも積極的に取り組むようになりました。

から受験を控えている皆さんには、受験は自分だけの力で乗り切るものではないことを知ってほしいです。私自身、今後も感謝の気持ちを忘れず、またサポートしてくださった方々の期待を裏切ることがないように、夢に向かって努力していきたいと思えます。



TDKエレクトロニクス ファクトリーズ株式会社 甲府工場 大佐古聖音
私がTDKエレクトロニクスファクトリーズに就職したいと考えるようになったのは、三年の一学期終盤でした。私は入学当初から就職することを決めていたのですが、様々な企業がある中でどこを選んで良いか分からず迷っていました。そこで、自分の趣味に繋がれる企業にしたいと思い、TDKにしました。

就職先が決まってからは、担当の先生から就職先について詳しくお聞きし、面接の指導も厳しくしていただきました。夏休みはもろろん、学校が始まってからも朝や昼休み、放課後も練習をしていたため、試験日には不安のない状態で挑むことができました。



～本校は今年度、創立40周年を迎えました～

10月31日(火)、本校体育館で40周年記念式典が行われました。記念講演会では、白根高校OBである小説家の神永学先生が講師としてお越し下さいました。「失敗は夢を実現するための力になる」をテーマに、神永先生が白根高生だった頃のお話から、卒業後にご苦労なされたこと、そして小説家として歩む道のりを、ユーモアを交えながら話して下さいました。

午後は桃源文化会館で、記念芸術鑑賞会が行われました。日本が誇る和太鼓アーティスト集団、DRUM TAOの「THE TAO 夢幻響」を鑑賞し、その世界観に圧倒されました。

以下、生徒の感想(一部抜粋)です。

講演会感想

講演を聞き、あらためて勉強の必要性を感じました。「自分の限界を自分で決めない」という言葉を聞き、私もこれからやりたいと思ったことは、最初からできないと決めずにどんどん挑戦していきたいと思いました。(3年1組 小山 真生)

神永先生の講演を聞いて、自分が将来どのような道を歩いていくべきなのか考えることができました。自分自身、失敗をなるべく避けて生活してきましたが、もっと自分のやりたいことをやって自分の意思を貫いて生きてみたいと感じました。(2年2組 野上 夏希)



芸術鑑賞会感想

私はDRUM TAOを初めて鑑賞しましたが、皆さんのかっこよさに圧倒されました。頑張る汗、素敵な笑顔、迫力のある姿、すべてがかっこよく神秘的でした。舞台を広々と使い楽しませてくれて、本当に楽しく最高の思い出となりました。(3年2組 植松 奈々)

パフォーマンスの熟練度と完成度の高さに鳥肌がたちました。太鼓や琴、尺八、三味線など多くの楽器を巧みに組み合わせて曲を作っていてすごいと思いました。芸術にあまり馴染みがない私でも、DRUM TAOのパフォーマンスのすばらしさに思わず興奮してしまいました。(1年4組 雨宮 楓)



私達野球部は、選手18名、マネージャー3名で活動しています。選手が少ないため、学年の壁もなく全員で練習に取り組んでいます。そのため試合でも選手全員に出場するチャンスがあり、皆で力を合わせてここまで戦ってきました。私達が入部した当初は3年生の先輩が2名しかおらず、そのため夏の大会が終わるとすぐに自分たちで1年生チームを作っていくことになりました。最初の頃は練習試合でも公式戦でも大差をつけられて負けていました。そのためこの2年間仲間たちと練習を重ね、練習試合で勝てるようになるまで成長しました。しかし、大会で勝たなければ意味がありません。今の私達の目標は、大会で勝利することです。今まで味わってきた悔しさも積み重ねてきた努力もすべて大会で勝つためのものです。3年生として出場することになる今夏の大会では、負ければそこで私達は引退です。悲願の1勝をつかむために、また今の仲間と少しでも長く戦い続けるためにも、全力でがんばります。

2年4組 戸田 蒼人



このコーナーでは、白根高校の「熱い」部活動を紹介しますよ。今回は、野球部の部長さんに話を聞いたよ。



全力部活!! 紹介コーナー

Shirane Spirit 挑戦 頑張る白根スピリット

白根高校通信 第55号

発行◎山梨県立白根高等学校 〒400-0211 山梨県南アルプス市上今諏訪1180 TEL.055-284-3031 FAX.055-284-3033

発行日◎令和6年2月26日 編集◎山梨県立白根高等学校 教務部

ホームページ <http://www.shirane-hs.kai.ed.jp/>

